小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	特定非営利活動法人 オーバル	代表者	室井啓子
事業所名	おーばる・ほーむ	管理者	室井啓子

法人・事業所の特徴	2019年は、何気なくやっていたことや、心身のリハビリテーションを評価。やったことを励ます30点満点で昼食が無料のポイント制を試みた。その際、家事労働の評価に個人差が大きく、ポイント評価に苦慮している。成果として各自の積極性は一段とアップし、地域との関わりも増え相互理解が深まった。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	0人	1人	2人	2人	2人	人	12人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	1パソコンの導入を試みる。 2各自がメモを取ることの重要性を意識する	入力を忘れる、時間がかかる。 パソコンが出来ない等の意見から内容によって仕分け、手書きと入力とで行うことにした。	1導入マニュアル作成が必要 2 業務内容で記録は違ってもいいのではないか	**記録の改善は継続し、実際に行いながら、スタッフの負担も考慮し、その度改善を図る**
B．事業所のしつらえ・環境	現在の環境を大事にしながら継続する	1 看板のある所まではわかりやすいが、建物が「ここ」が解り難い。 2蟻が発生するようになった	1清潔感は保たれている 2 蟻退治は周辺にミントを蒔くなどで効果がある	**建物に目印となる工夫を考える**
C．事業所と地域のかかわり	包括と協働で地域のサロンに出向き、年1回の話し合いを検討する	「地域ケア会議、ケアマネサロン」等で年間 4 回実施し、周知を図った。柔軟な対応が特徴であることの理解が深まっている	1 名前は知っているけど、内容が解らない人が多い 2 要介護になる事に構えて、内容がタブー化されている	**事業内容を知って頂くためにも、地域に出向くことを積極的にしていく**
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	各自の情報を積極的に集める	1 登録者の地域での情報は入手し難い 2 地域との関わりをつなぎ見守っている	1 登録者と共に参加する機会が増えている 2ご本人からの情報も難しい 3個人情報との兼ね合いもある	**事業所が出来る事でイベントへの参加・協力を積極的に工夫する**
E．運営推進会議を活かした取組み	関係を深めるためにも意見交換情報の共有をする	1 事業所側からのテーマにご意見を頂いている 2他の事業所との連絡会を年6回 3市内三ヶ所合同委員会をした	地域から出た事例に、どこまで意見を出してよいかわからない	**事業所に留まらず、視点を地域に向け、一緒に取り組む**
F．事業所の防災・災害対策	地域の防災と連携を図る	防災ワークショップに参加したことで、施設に対しての「ともに…」という住民の変化が感じられた	1 防災訓練は、報告のみで直接参加の機会がない 2 ワークショップに加わったことはよかった。 3 避難者受け入れは体制がないが、人的に頼りになる	**避難経路や支援体制を具体的に進めるため、委員の参加機会と避難先との打ち合わせを行う**